

地救ふお〜らむin高野山

「人類史を画する行動の先頭に!!」

全国からのべ800人、熱いアピールを採択!

COP15に向けて世界遺産の地・高野山からメッセージを送ろうと、米国環境活動家やデンマーク大使、三浦雄一郎さんらを迎えて開催された「地救ふお〜らむin高野山」(主催WeNET、他3団体)は4月25/26日の両日で、のべ800人の参加者を集めて大成功に終わった。講演者の浅岡美恵さんやパネラーの西岡秀三さんらには東北や関東、中国地方からの参加者が熱のこもった意見や質問を投げかけ、ふお〜らむを盛り上げた。また分科会でも熱い討論から拍手が起こることもあり、採択された高野山アピールには参加者全員の「地球と子ども達への思い」が溢れていた。「東京で開催してもこんなに集まらないのに!」(東京からの参加者)との声が印象的だった。(YM)

「ふお〜らむ」成功へのご協力 ありがとうございます

人類の命運がかかるCOP15の成功へ和歌山からも可能な限りのエールをと、ほぼ1年にわたり総力を挙げて取り組んできた「地救ふお〜らむin高野山」は、延べ800人の参加と充実した内容で熱気みなぎる催しとなり、高野山アピールという成果を得て大盛況のうちに幕を閉じました。

この成功は、本ネットワーク会員の皆さんや全国の環境NGOの仲間たち、多忙な日程を割いてお越し頂いた多くの講師の皆さん、資金面で支えてくださった財団法人雑賀技術研究所、素晴らしい会場を無償でご提供くださった高野山大学、和歌山県ほか快くご後援くださった各団体など、実に多くの人々のご協力ご支援のたまものであり、ここに深甚なる謝意を表するものです。ありがとうございます。



ふお〜らむの主催者代表
あいさつをする重恒代表

日本はCO2削減目標で「世界を驚かす覚悟」示せ



さて、その「地救ふお〜らむ」からはや2ヵ月。予想されたことだが、COP15に向けた国際交渉では先進国と途上国の主張が正面から衝突、新たな枠組みでの合意の困難さが浮き彫りとなっている。

先進国は、中国やインドなど途上国であってもいまや温暖化ガスの大排出源となっている国々に対し一定の削減目標受け入れを求めている。これに対し途上国側は、現在の温暖化は先進国の責任だとして大幅な削減を先進国がまず約束すべきと主張、削減目標を課せられることを強く警戒している。

温暖化対策の必要性はどの国も理解しているが自国が貧乏くじを引くことは避けたい。ここにこの交渉の悩ましさがある。

「共通だが差異ある責任」は気候変動枠組条約の基本思想だ。どの国が出そうが温室効果ガスの増加は気候をおかしくするのだから、どの国であれ共通の責任は担ってもらわねばならない。だが、温暖化を招いた先進国と途上国では果たすべき責任の程度にはおのずと差がある。結論から言えば、ここはやはり先進国が野心的な削減目標を示し、また温暖化対策を技術面資金面で強力に支援するイニシアティブを発揮することで途上国を巻き込ん



アンジェ・アンダーソンさん



デンマーク大使



浅岡美恵さん



早川光俊氏(上)をコーディネーターに、浜中裕徳・西岡秀三・榎本純子・平田仁子の各氏によるパネルディスカッション



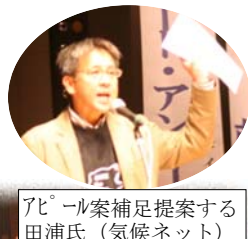
でいく以外、合意に達する道はないだろう。

こうした状況下の6月10日、麻生総理は2020年までの日本の温室効果ガス削減目標を2005年比15%減にすると発表した。15%といえば大きそうだが1990年比では8%減、京都議定書の約束よりたった2%多いだけだ。大きな削減目標を嫌う経団連に配慮した結果だが、COP15に向け折しもボンで開催中だった国連の作業部会では、科学の要請からほど遠い志の低さに加え、基準年をごまかす姑息さも相まって失望が広がり手厳しい批判が相次いだ。

とはいえ国際交渉はこれから。ボンに続き9月にはバンコクで、さらに11月にはバルセロナでCOP15の合意をめざしギリギリの交渉が続く。その過程でこの目標は必ず見直しを余儀なくされるはずだ。とすれば、よそから催促されてイヤイヤ修正するような醜態だけは避けたい。ワールドカップ出場を決めた岡田ジャパン同様、ここは「世界を驚かす覚悟がある」ことを率先して示すときではないか。政府にその覚悟を決めさせることこそ世界と歴史から課せられた私たち日本国民の使命だ。倦まずたゆまずあきらめず、COP15まで経団連の抵抗を圧倒する理性の声をあげ続けよう。(重栖 隆)



三浦雄一郎氏



アピール案補足提案する
田浦氏(気候ネット)



第①分科会



第②分科会



第③分科会



第④分科会



アピールを読み上げる
重栖 梢さん(声優)

高野山アピール

地球のいまを共に生きる皆さん。

地球温暖化はいまや、科学者たちが警告を入れて描く未来図ではなく、私たちが日々の暮らしで折にふれ実感する現実

となって、急速に進み始めています。このまま気温上昇が加速すれば近い将来、世界中で多くの生き物が絶滅し、人類の生存すら困難になるといわれています。こうした事態を招いた原因は、ほかならぬ私たち人類の化石燃料に過度に依存した営みにあり、一刻も早くこれを改めなければ早晩、破局は避けられません。

このような危機感を共にする私たち700人は2009年4月、世界遺産「高野山」につどい、地球温暖化をめぐる最新の科学的知見を学んだうえ、温室効果ガス削減への政治的イニシアティブや近未来の人類が到達すべき低炭素社会像、さらにはそうした社会を築く価値観や生命の永続を支える食への備えなどについて語り合い、いま適切な対策を講じればなお破局は避けうることを理解するとともに、そうした対策を現実とするには広範な市民による強力な働きかけが求められていることを確認しました。

地球のいまを共に生きる皆さん。

当面最大の関門は、今年12月7日からコペンハーゲンで開かれるCOP15において、地球温暖化の克服に実効ある新たな枠組みを打ち立てることに成功するか否かです。この枠組みには米国や途上国を含む主要な排出国すべての参加が必要であり、その前提として現在の地球温暖化に大きな責任がある日本など先進国が率先して温室効果ガスを削減するリーダーシップが不可欠です。しかし現状はこの前提すら満足させるに至っていません。私たちは、科学的知見に従い、破局的な気候変動を防ぐため先進国の温室効果ガス排出を2020年には1990年レベルから25~40%削減する必要がある点で一致しました。ようやく始まった日本の中期目標をめぐる議論では経済的損失等を理由に消極的な意見も多くあります。しかし、深刻な経済危機や格差、派遣切りなどで社会不安が広がる現在、野心的な目標を掲げることこそが、新しい雇用を生み、新しい産業を興すことにつながるのです。私たちは、日本政府が科学の警鐘を真剣に受け止めて将来世代への責任を果たすに十分な中期目標を決定し、さらにその実効を担保する法制度を早急に整備するよう、強く求めます。

地球のいまを共に生きる皆さん。

状況を打開する鍵は私たちにあります。私たちは主権者であり、政治に影響を与えることができます。私たちは消費者であり、経済に影響を与えることができます。そして私たちは生活者であり、家族や友人からはじめて今を生きるすべての人々に繋がり、協力や連携を広げ、影響を与えることができます。

まず、地球温暖化の現状とこの地球上に生きとし生けるものすべての未来に暗く影を落とす危機の実相、さらにはこの危機克服への道筋とCOP15の意義を、すべての人々に知らせましょう。主権者として、消費者として、そして生活者として、可能なあらゆる方法で政府や産業に働きかけてこの国を動かし、COP15を必ず成功させ、さらに低炭素社会に向かって現在の社会や経済のシステムを変革していきましょう。

「地救ふおーらむin高野山」に参加した私たちは、この人類史を画する行動の先頭に立って全力を尽くすことをここに宣言します。
2009年4月26日 地救ふおーらむin高野山 参加者一同

地域の温暖化対策⑤

岩出市地球温暖化対策推進委員会の動き

報告 岩出市推進員・松下靖彦

昨年6月の岩出市地球温暖化対策条例施行に伴って設置された「岩出市地球温暖化対策推進委員会」は今年に入って2回の会議を開催しています。委員会メンバーは商工会代表・生活環境連絡会代表・旧4町村代表・市職員4名・推進員5名の計15名で構成（必要に応じて増減あり）、議長は生活福祉部長、庶務は生活環境課が担当しています。

これまでの活動は、市民対象の第1回生涯学習講座での学習会（5月16日・約100名参加・講演＝前岡正男事務局長）、区長・自治会長に呼びかけた学習会（5月23日・79名参加・講演＝筆者）、また4月の高野山フォーラムには市会議員や市職員、生活学校、JA、一般市民、推進員など約40名が参加、バスは満員状態となりました（両日参加は3名）。6月の環境月間には市役所ロビーにてパネルを展示（6月1日～6月15日）、7月には

全市職員の研修も2回に分けて予定され、その後にはノーマイカーデイを月1日から月3日（毎月10/20/30日）とすることも検討されています。



今後は区長・自治会長の協力を得て、各地区におけるホームエコ教室の開催を予定。また様々な団体の会合にも出向き、時間を貰って簡潔な学習会を開くことも検討、推進員の活躍が期待されています。7月予定の次回会議では「冷暖房温度の適正化」や「省エネ電球の普及」、「24時間営業の店舗にはソーラー発電の設置をお願いする」など、事業者向けの対策等を提案することとなっています。

しかし現時点では普及啓発が中心となっていて、具体的なCO2削減（廃食油の回収やゴミの減量化など）には至っていないのが現状です。

温暖化ガス～県内発電所で大幅増

2007年度「温室効果ガス排出量」開示データをみる

地球温暖化対策推進法にもとづく「特定事業所」（第一種＝エネルギー使用原油換算3000kl/年以上、第二種＝同1500kl/年以上）の、2007年における温室効果ガス排出量の公表（2回目）がおこなわれました。今回は、前回非開示だった住友金属和歌山製鉄所など鉄鋼業での排出量が明らかになりました。県内82の特定事業所での排出量は約1120万ト（第一種の50事業所だけで約1108万ト）で、和歌山県における総排出量（2005年）約1793万トの約62%です。今回初めて開示された住友金属和歌山製鉄所の排出量は約757.7万ト、1事業者で全县の4割以上を占めています。また、今回の開示資料をみると、県内の「発電所」での直接排出量が大きく増えていることが特徴（表1）です。

全国的にも88の発電所で30%を占め、18の鉄鋼と、素材系製造業およびエネルギー産業（石油精製）などわずか166の事業所で日本の総排出量の半分をしめています（表2）。発電所ごとの石炭、石油、天然ガスなどの燃料消費量のデータが04年から非開示となっており、この公表はもちろん、これら大口排出事業所での対策を積極的に国がすすめないかぎり、温暖化を防止することにはなりません。昨年11月に発表された07年度の日本の排出量は、1990年比8.7%増で、「京都議定書」で約束したマイナス6%を実現するためには、2012年までに15%近く減らさなければなりません。こうした事態を「棚上げ」にし、なかば居直って2020年の「中期目標」の基準年を「2005年比」にするのでは世界で通用しません。産業界の「圧力」にひきまわられるのではなく、人類の生存がかかった問題に、日本の政府は真剣にかつ積極的にとりくむべきです。また、家庭や地域での市民の努力や活動が生きる社会システム、制度やルールが必要ですね。（YS）

表1 県内発電所の直接排出量（tCO2）

	2007年度	2006年度
関電 御坊発電所	3,650,000	2,670,000
関電 海南発電所	2,490,000	1,300,000
和歌山共同火力	1,560,000	1,470,000
	7,700,000	5,440,000

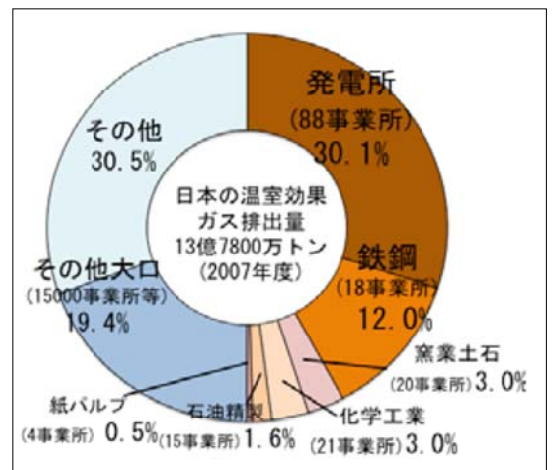


表2（気候ネットワークHPより）

今年度のわかやま環境ネットワークの活動

事務局長 前岡正男

今年も和歌山県地球温暖化防止活動推進センターとして、温暖化対策に関する普及啓発が活動の中心になります。

まず、第6期となる地球温暖化防止活動推進員の養成講座は、8月2日より、和歌山市を中心に4回実施します(推進員に未だなっていない会員の皆様！ぜひ受講をお願いします。知人・友人・同僚の方などにも是非ご紹介下さい)。

推進員のスキルアップ研修は、11月8日に紀の川市での開催を予定しています(紀北の皆様、よろしくお祈りします!)。ほかにも、東牟婁で年明けに実施予定。

STOP温暖化木の国知恵の環コンクールは3回目の開催となります。昨年度よりも応募点数を増やし、全国大会での初入賞も目指したいと思えます。募集期間は7月1日～9月15日。選定会は10月4日です(いろんな取り組み、紹介して下さい)。

今年初めての事業として推進員OJT事業が始まります。推進員に実際の活動現場を提供し、そこでの実践を研修として支援するものです。昨年までやってきましたコバンザメ作戦(大規模イベントへの出展)は、やり方を見直して、今年度はこのOJTとして各地域の推進員さんたちの活動と研修の場としたいと考えています。すでに続々と出展のオファーが入っています(やっぱり今年も忙しそう...(^_^))。

紀南地域地球温暖化対策協議会との共催で、8月30日に田中優さんを招いて上富田町で「環境フォーラム」を開催します。紀南のメンバー、今年もご苦労様!

小さな学習会に講師を派遣する「ホームエコ実践教室」は、もっともっと回数を増やしていきたいと考えています(町内会やお友達の集まりで声をかけただけだとありがたいです)。

推進員や会員が啓発活動に使えるパンフレットを今年度は作成する予定です。ぜひご活用下さい。

昨年初めて手がけた、生物多様性に関わる事業、自然系活動団体と連携して今年も続けていきます。また、3回目となる和歌山環境検定も年明けに実施する予定です。

ぜひ、皆様のご協力、興味ある活動への参加をよろしくお祈りいたします。それから、会員拡大もね!

COP15(コペンハーゲン)への代表派遣・希望者(自費)募集。
詳しくは事務局までお問い合わせください。

【当面の日程】

- 5月25日 推進員養成講座募集開始(～7/21)
- 7月1日 「知恵の環コンクール2009」募集開始(～9/15)
- 8月2日 推進員養成講座第1講
- 8月23日 同 第2講
- 8月30日 環境フォーラム(上富田町)

川口美智子さんのご逝去を悼む



本ネット監事の川口美智子さんが4月22日、「地救ふおらむ」の前々日に不慮の事故により、ご逝去されました。

川口さんはその直前、「ふおらむ」の準備で、私達の事務所にお越しになり、和歌山市婦連が運行する直通バスや私達から川口さんをお願いしていたスタッフとしての仕事について、いつも通り、にこやかに打ち合わせておられました。それが終わり、私達、事務所のメンバーと、高野山で会うことを笑顔で約して事務所を出られたあと、横断歩道を青信号で渡っているところを自動車にはねられ、病院でお亡くなりになりました。享年74歳。

川口さんは、和歌山における環境市民運動の草分け的存在で、自ら結成されたNPOのリーダーとして、また、地球温暖化防止活動推進員の第1期生として、さらには、婦人運動のリーダーや地域の世話役として、様々な場面で実に献身的に活動してこられました。

私たちはフォーラムの会場受付に川口さんの遺影を置き、一緒に、という気持ちで二日間を過ごしました。悲しみに沈む堰本理事を始め、女性団体の方々も、勇を鼓して、川口さんが準備したバス1台をいっぱいにして高野山へ乗り込み、フォーラムを盛り上げて下さいました。

川口さんには、わかやま環境ネットワークの事務局員として毎月の事務局会議に出席していただき、また推進員養成研修では欠かせずスタッフとして働いていただきました。どんな活動でも、歯に衣着せぬ意見を言いながら、ほんとうに一生懸命に実践して下さいました。川口さんを失ったことは、わかやま環境ネットワークにとって、計り知れない損失です。しかし、私たちは、川口さんの遺志を継いで、進んでいかなければなりません。

川口さん、安らかに眠り下さい。そして私たちのこれからの活動を見守って行って下さい。

合掌

人・人



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第16号 (2009年6月20日発行)
 発行: NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重柄 隆
 〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4 電話 073(432)0234 FAX 073(421)6545
 mail: wenet@vaw.ne.jp http://wenet.info/